The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	独逸の青年運動
Author(s)	高橋, 俊乗
Citation	懐徳. 1938, 16, p. 27-39
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88999
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

獨逸の青年運動

高橋俊乘

今日のナチスドイツは、從來の知育に偏り品性陶冶や體育を第二位に置いた學校教育の弊害を熟知してゐる。從來の學校といへども固より品性陶冶や體育の重要なことを知らないわけではない、よく知つてゐたが、過去數百年の歴史的傳統と固定した組織を持つてゐる學校では第十八世紀の啓蒙時代の習慣が今尚力强く流れてゐて、「人間」を作ることや身體を鍛へることは常に後廻しにされ、極端に言へば知識の殘滓を一定の教科書によつて分授するだけである。西洋の學校制度を模倣した日本の從來の學校もこの埒外のものではなかつた。維新前の我が國の學校は寺小屋の如きに到るまで、凡て單なる知識分授の場所にあらずして、教師と門人とが相互に品性を練磨し、人格を陶冶する場所であつた。吉田松陰の松下村塾の如き、その偉大なる一例であるが、この塾は、その門人が多く廟堂に立つたのとその史料が多く世に紹介された爲、特に有名となつたのみならず、勿論松陰その人が教育上から見ても卓拔なる教育者であつたから、頗る有名になつたけれども、この塾に近いものは江戸時代に多數存在して居つた。少くとも我が國の昔の學校は知育と德育とを綜合し、人間そのものを作る修

養場であつた。

併し今日の學校組織を部分的に若干の改造を加へて見たところで、學校の根本的缺陷が改善されうるものではない。ヒットラーは、九十五パーセントまで青年の頭が必要としてゐないで、從つて間もなく忘れ果てるやうな過多にして煩雜な教材を無理に詰込んではならぬといふ。これは知識の量に關するものである。これだけの缺陷ならば、學校の改善も大して困難ではなかりさうに見えるが（それさへ中々實現は至難であるが）、その外に尙幾多の改良すべき點があるから、德育や體育が殆ど顧みられないで、放棄されてゐることとなる。

勿論今日の學校で德育や體育を全く行はないのではない。知育に比べては斷然權衡を失するほど少量の努力を拂つてゐるに過ぎない。然るに學校を卒業してしまつた後は、かく少量の德育や體育でさへ全然缺如してゐる有樣である。國民の體育や德育に何等の關心をも示さず、尙修養期にある青年男女をして街上や遊里の巷に放任して平然としてゐるやうな現代の教育方針では、國家の前途が頗る危險と言はねばならぬ。ナチスドイツは、青年の教育を學校在學中に限ることなく、卒業後といへども青年が成長期にある間は體育を奬勵し監督すべきであり、同時に德育についても指導を怠つてはならない。青年が小學校を卒業すると共に、その後兵役に服するまでの間、教育上國家の監督權が中絶するかの如く考へるならば、それは甚だしい誤解である。この監督權は國家の權利であるが、同時に義

務である。

抑、國家の興隆は所謂インテリ階級がいくら多數集つたとて出來るものではない。これがナチスドイツの信條である。少數指導者の指導のまゝに、國民が揃つて邁進すればよいのである。國民の大多數に要求されるものは、頑健なる肉體と强靱なる實行力とである。實行力の教育とは意志力と決斷力と責任を飽くまでも果す力とを含む。いふまでもなく、健全强靱なる精神は健全强壯なる肉體の中にのみ見出されるのが普通である。この逆は必ずしも眞ではないから、强健な身體を持ちながら不德な輩も少くないが、身體虛弱では、多少の例外もありとは言へ、大體に於て十分なる實行力を持つことが出來ないから、教育しても德器の成就がなり難い。かゝる理由からナチスドイツは頗る體育に熱心であるが、それは一部少數の天才的選手を養成するのが眼目ではなく、國民全部が體質に應じた體育に力を致して、體位を向上せしめる間に、選手が出現すれば尙更結構だといふ態度である。

ヒットラーの「我が鬪爭」の後篇第二章に、世界大戰の際にドイツ人が饒舌で機密を守る精神に缺けてゐることが、盛んに非難の種であつたと述べてゐる。不用意に重要工業を參觀せしめたり、輕卒な對話の間に國防上の損害を釀したことが多かつたといふ。これも從來の知育偏重の弊害である。大國民として不可缺の美德は、ヒットラーによれば忠實、犧牲心、寡默の三であるといふ。故に身體的鍛錬と同時に、健全なる身體を基礎として此等の諸德を涵養し、更に意志力、決斷力と責任感とを大

いに青年に養成しなければならぬ。從來の教育では所謂小理窟を並べ、一かどの意見を立てる青年は出來たが、その意見を貫徹し、これが責任を最後まで己が身に引受ける人間は出來なかつた。憶病な優柔不斷な人間が多かつたのである。

かゝる立場からナチスドイツでは、學校外に於て學校教育を補ふべき教育運動が色々行はれるに到つた。その中でも最も顯著にして我が國にもよく知られたものは、勤勞奉仕とヒットラー青少年團との二つである。ナチスドイツの新教育の眼ざすところは以上の如くであるが、その手法と手段とはヒットラーが軍人出身であることから見ても、軍隊教育を模範と仰いでゐることは察するに難くはない。それは一種の壓迫束縛な點があつて、青年の心理に卽しないこともあるが、その反面に勇壯活潑にして一絲亂れぬ統制的な特色は、感激性に富む青年をして喜び勇んで、此等新教育に參加せしめることともなつた。さり乍ら此等新教育がたゞ官製天降りの制度であつたならば、果して多數の青年が感激興奮して、これに參加したであらうか。ドイツの此等新教育制度は、最後の仕上げこそ政府の法律で劃一的に制定せられたが、その發生は實に青年の自由意志の運動として始まつたものである。

○

勤勞奉仕は一九三五年六月から滿十八歲の青年男子の義務となり、必ず六箇月間一定の宿舍に入り、そこで寢食をとりつゝ、勤勞作業に服すると共に、肉體的鍛錬や德育的訓練を受ける。勤勞作業は主

として土木事業又は農林業の基礎工事である。ドイツは工業原料にも乏しいが、それにも増して困るのは食糧を自給自足出來ないことである。ドイツが世界大戰に破れた根本原因もこゝにあるから、ナチスドイツは食糧の自給自足にも多大の努力を拂つてゐる。故に勤勞奉仕も農事に力を入れてゐる。しかし勤勞奉仕は肉體勞働者の職場を減少させたり、之を荒したりして、失業者が出るやうなことは決してしない。私人が經營しては容易に收支の償はない沼澤地の乾拓や灌漑の便の不良な乾燥地に溝を通じたり、森林の防火工事を完備したりするやうなことのみに携はるのである。されば、青年が奉仕する勤勞は、青年を勤勞させることによつて政府や市町村が土木費を節約せんとするやうなさもしい考は全然なく、奉仕と言つても我が國で往々誤解されてゐるやうに賃銀や報酬を受けずして無料で勞力を提供するといふ意味ではない。

ドイツの勤勞奉仕は飽くまでも教育である。國家は青年が任意に選擇するを許さず、全部動員强制して貧富貴賤の別なく、肉體勤勞を行はしめるから「奉仕」と稱してゐるのである。學校は、小學校以外では青年又は父兄の選擇を許してゐる。然るに勤勞奉仕では之を許さない。家庭から通勤も許さない。全部一定の宿舍に入舍せしめる。舍内の生活は全く軍隊式である。こゝで半年間心身の鍛錬を行へば、青年全部が肉體の强壯な實行力に富んだ青年にまで養成されることは論を俟たない。將來學問の研究をする者も、文筆を以て立つ者も、制度を運用する官吏たらんとする者も、農工商たるべき

者も皆肩を並べて勤勞に從ふといふことは、特にドイツの勤勞奉仕制の長所である。これによつて全部の國民が殘らず富めるも貧しきも共同一致して、公共の爲に自ら手を下して働くことを好むやうになり、彼の徒らに空論を弄して然も仕事を厭ふ弊や、困難なことは人に讓り己れは平易なことを爲して、然も甘い汁だけ自分で吸はんとするやうな個人主義的不德は全然跡を絕つに到るであらう。强制的とは言へドイツの勤勞奉仕は無料の勤勞奉仕ではないから、政府は年々二億マルク以上の經費を支出して宿舍の建設、器具、職員の俸給、賄及び奉仕に參加する青年の日々の小使費等に使用してゐるのである。

宿舍及び仕事場の規律的な軍隊的訓練及び勤勞は直接に德育と體育に十分に役立つものであるが、同時に或意味の職業指導ともなるのである。更に戶外勤勞の出來ない雨雪の日や寒風の烈しい日などは宿舍內で系統だつた具體格段の職業指導をすると共に、ナチスの世界觀や輓近の外交史や人種研究など、ナチスの廣義の政治敎育を施してゐる。ナチスの政治敎育は他の種々の機會に行はれることは勿論であるが、勤勞奉仕に於ても行はれる。されば高等學校や專門學校や大學の如く、學生個々の個性と希望によつて科を分つて敎育する所と違つて、勤勞奉仕制はナチスの欲求する國民共通の高等敎育とも稱すべきものであるから、往々この制度を「ナチス國民高等學校」などと稱せられる。

さて此の制度はその起源に於ては決して官製のものではなく、ごく最初は青年學生の有志が私に設

立した自由意志の團體に始るのである。一九二〇年から三〇年へかけて學生が工業勞働者や農業勞働者が失業問題の解決といふ立場からではなく、しかもあらゆる職業の同胞と肩を並べながら、滿足して働く機會を得る爲に、職場へ絶えず集つてゐたのである。彼等を結びつけた力は專ら勤勞の道德的な價値であつた。かくしてドイツに於てはナチス新政府以前から筋肉勞働に對する蔑視は遂に消失したのであつた。就中一九二四年に大學の學生が團結してアルタマーネン團を組織し、農業に關する任意有志の勤勞奉仕を始め、農民精神の民族的文化的開發を圖つた。アルタマーネンといふ語は中古高地ドイツ語に屬し「農民」を意味するものであつた。尙その他にも有志の青年運動の團體が色々あつて、勤勞奉仕運動が漸次盛大となつたが、一九二八年ナチス黨はいち早くこれを國民一般の義務とすべきことをその政綱に加へ、二九年にはナチス黨から國會にも法律案として提出されたほどであつた。

一九三一年ブリューニンクの政府はこの趨勢に鑑み、自發的勞働奉仕を法律的に承認し、更に翌三二年の法令によつて此の制度に認可を與へた。しかし當時の勤勞奉仕制は主として失業者救濟の爲に採用され、教育的價値を認識せざるものであつたから、それは當然個人主義的であり、全體主義的ではなかつた。一九三三年ナチス政府となつて、一歩々々義務的奉仕制への道を開いた。この間にも青年學生がこの制度の爲に努力貢獻したことは頗る多かつたが、三四年の春には全ドイツ學生團卽ちドイツの全大學の學生の橫斷的な團體が、當局から何等强制されなかつたに拘らず、全學生は大學入學

前に必ず皆勤勞奉仕に參加することを義務としなければならないと、自發的に決議したことは、最も確實に右の消息を力强く證明するものである。卽ちドイツの學生は勤勞奉仕の歷史に於て榮冠をかち得たわけである。前記の如くその翌三五年六月勤勞奉仕は全ドイツ青年男女の義務となつたのである。この中、女子は準備の整はない爲今日尙任意制となつて居るが、女子でも大學に入學せんとするものは必ず半年の勤勞奉仕を終了しなければならないのである。

○

ヒットラー青少年團も一九三六年十二月に義務制となつた。青少年團は青年少年共に男女を含み、從つて四部に分れる。

1　青年團　十五歲から十八歲までの青年。

2　少年團　十歲から十五歲までの少年。

3　女子青年團　十五歲から二十一歲までの女子。

4　少女團　十歲から十五歲までの女子。

ドイツの尋常小學校は四年間であるから、丁度十歲で卒業する筈であり、それを卒業した者は全部、このヒットラー青少年團へ收容せられる。女子の方が加入年限の長いのは、女子には勤勞奉仕がまだ義務になつて居ないし、かつ男子は勤勞奉仕の後で兵役の義務があるが、女子にはそれもないから右

の二つの期間にほゞ該當する間だけ、女子青年團の義務を繼續させたものである。これを以て見るも、如何にナチスドイツが此等の制度を重要視してゐるか、明白に伺ひ知ることが出來るであらう。

ヒットラー青少年團の任務は、全く右の年齡期間、極めて嚴格な訓練を以て、德育と體育とを施し、以て學校教育の缺點を補ひ、尙家庭教育をも助けようといふのである。勿論學校には獨自の任務があるから、この任務に就いては之をどこまでも尊重する故、學校の教授時間から多くを奪ひ去るやうなこともなく、また當然家庭によつて行はるべきことは、之を家庭へ完全に委ねてゐる。

ヒットラー青少年團の主な施設の第一は「スポーツの午後」と稱し、毎土曜の午後にスポーツを主とした集會を青少年團の集會所で行ひ、「集會所の夕」と稱する會合を毎水曜の夕に行つて講演・輪讀等で政治教育を、音樂などで情操陶冶を行ひ、かつ團員の親睦を計る。また月二回日曜に遠足を行ふ。その中、一回は半日の遠足、他の一回は土曜から一泊の遠足となつてゐる。

年々夏には風光明媚にして森もあり水もある所で野營を行ひ、水泳や體操教練を課し、講話を加へ、更に團員間の親和を增進することを力めてゐる。更に全國に二千五百以上の青年宿泊所が設置され、青少年をして、個人的にも集團的にも隨時旅行する者に之を利用せしめてゐる。これによつて青少年は體位を向上することが出來ると同時に、その祖國を體驗的に知ることが出來、眞の同胞精神や愛鄕心をも養ひうるのである。一九三六年には宿泊者の總計は七百萬を超えたと統計されてゐる。この宿

泊所はもと「渡り鳥」(ワンダーフォーゲル)と呼ばれた旅行制度(私設)を改編したものであるが、その一泊の宿泊料は極めて安價であつて、ベルリン市の一回の電車賃と同額である。しかも頗る清潔衞生的な施設であるから、廣く利用せられて教育上に大なる貢獻をしてゐるも宜なる哉である。

此等は不撓不屈の精神と熱烈なる國家意識と着實にして機敏なる活動力と飽くまでも課せられたる責任を遂行する魂を養成し、頑健なる肉體を錬磨するものに外ならないが、尙社會的職業的鍛錬として注目すべき他の施設がある。それは「ドイツ勞働戰線」と協力して、全國職業競技會を毎年二月から四月までに行つてゐることである。この競技には手仕事であれ、座業であれ、また就職せずして練習中の職人であれ、十四歳から二十一歳までの勞働者は誰れでも參加出來るのである。この競爭は此れまでどこにも見られなかつた程、勞働の成果に對する尊敬の念をドイツ青年に鼓吹した。この競技會は職業の種類に應じて色々の分野に區分され技術的・精神的な差等に應じて色々標準の異なつた等級に分たれてゐる。雇人と雇主とは一定の期日までに完成すべき調製品を仕上げるた爲には、協同して努力するであらう。競爭者は金錢とか他の物質的利益の爲に努力するのではなくて、個人的業績の優秀なことを示し、或は自己の屬する集團の名譽の爲に奮鬪するのである。さうして優勝者は職業各分野の代表者と共に、毎年國民勞働日たる五月一日にはヒットラーから招待され、ベルリンの總統官邸に於て總統の祝辭を受け、晝餐を與へられる。かくの如くにして青年筋肉勞働者の成果は青年頭腦

勞働者のそれと同一の水準に置かれるのである。

このヒットラー青少年團の組織も、最初は前記の青年の自發的な「渡り鳥」運動に始るのである。これは本來、大自然に憧れ、山野を跋渉して會員の親睦を計り、ドイツ古代文化の址を探る爲に一九一三年に設けられた團體運動であつたが、世界大戰後急速に發展して大きい力となるに到つた。然るに一九二一年より政治化して、その一部は社會主義的、共產主義的青年運動となり、之に慊らない者は宗教的方面を强調したので、舊教や新教の青年團體が生れた。かくしてドイツの青年運動は方向と理想を失ひ中心思想が消えて四分五裂した時に、ヒットラーの「我が鬪爭」が公刊され、これに共鳴する青年達は我れも〳〵と、この新著に殺到し、新ドイツ建設の爲に、一九二六年始めてヒットラー青少年團の組織を見、二九年に至り、ナチス黨大會に於て、總統の前を二千人の團員の最初の分列行進が行はれた。これが母胎となり、他の青少年團を漸次改造し、統合して今日に到つたのである。

○

ドイツの勤勞奉仕でも、青少年團でも、世界的に卓拔なる成績を擧げ、嘖々たる名聲を荷ひえたのは、決して偶然ではない。主な原因を數へても、第一に幹部や指導者は、多年この運動の爲に努力し、苦勞した青年から採り、これに思ふ存分の腕を揮はしめてゐることである。決して官吏が机上の計畫で指導するのではない。その爲には第二に多額の費用を支出して、緊要なことには決して經費を惜ま

ないことである。かつ規模雄大なる編制により、國家的大事業として行つてゐるので、實績の擧ることは當然であらう。第三には勤勞奉仕でも、青少年團でも、元來が青年の自發的運動であり、しかもそれが愛國的性質を帶びたものであつたから、今尙その特色が傳へられてゐるので、青少年は喜んでこれに參加するのである。かくて指導者も、團員も、潑剌たる元氣を以て、眞劍に活動することが出來る筈である。

我々は必ずしもナチスドイツの青年運動を、隅から隅まで贊同するものではない。又ドイツでは、正しい事でも、國體の異なる我が國に直ちに之を移して良いか惡いかも疑問である。一々の微細な點に到つては、詳細に吟味研究を要することは言ふまでもあるまい。併し、前記の三點の如きは、我が國に於ても十分に考慮すべき點であり、採用してもよいのではないかと信ずる。我が國の生徒は、學校の階級を上る每に嚴重なる入學試驗で身體を破壞し、品性は愈〻個人的利己主義に墮落しつゝあるのに對し、ドイツの學生は、大學入學前半年間勤勞奉仕をして團體的訓練を受け、體育でその肉體を鍛へることが出來る。

かくの如く、勤勞奉仕と青少年團が義務制となり、擧國的に大規模に行はれる結果、將來のドイツ人は頗る驚歎すべき、或は恐るべき國民となるであらう。

從來はドイツでも、我が國と同樣に、國民を國家の直接の指導下に置いたのは、國民が小學校の義

務教育を受ける幼少な時と、兵役に服する期間とであつた。兵役に服して後は既に成人であり、普通ならば何かの業務に從つてゐる時であつて、或程度の教育を受け終つたと見てよいのである。然るに小學校以後、兵役以前の數年間の青年期は精神の動搖期であり、所謂善にも、惡にも染まりやすい時である。一歩誤ればあたら一生を棒にふつてしまふ。これは本人にとつても、國家にとつても大なる損失である。小學校でいくら良く教育しても、その後、中等教育や、更に進んで高等教育を受けない多數の青年にとつて、小學校以後兵役までの數年間を放任して、自由にさせておく結果は、頗る寒心すべきものがある。これは精神上にも、身體上にも共に重要な問題である。ナチスドイツは小學校から引續き、ヒットラー青少年團、勤勞奉仕をいづれも義務制とし、兵役に服し終る時まで、青年男子を常に直接に監督指導し、女子をも二十一歳まで青年團を延長して、同じく直接に指導し、一人も例外を認めない。かうして、二三十年も經過した後の將來のナチス國民の體格と精神力は、實にすばらしく優秀なものとなるであらう。（昭和十三年八月）